

感染症定期報告感染症別文献一覧表

報告文献一覧表(医療機器) (平成22年10月1日～平成23年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	O型肝炎	Virology Journal 2010,7:217	スペインにおいて、共通の供給源から大腸内視鏡検査を行った2名の患者へのHCVの院内感染の症例が報告された。疫学調査の結果、内視鏡の不適切な再処理が示唆された。またHCVアウトブレイクに関係した3名の患者を見出した。感染の正確なルートは不明瞭のままであるが、患者間のHCV感染を実証することができた。
2	E型肝炎	Arch Virol 155,1697-1699,2010	タイにおけるヒトへのHEV感染源としてブタの可能性について報告された。タイ人症例がHEV遺伝子型3型に非常に近い遺伝子型に感染していたことが示された。
3	E型肝炎	J Gen Virol.2011 Jan 12	日本において野生イノシシ450匹についてHEV感染の全国的調査を2005年11月から2010年3月の間で実施し、16匹(3.6%)が進行中のHEV感染であることを見つけた。このうち11匹が遺伝子型3であり、4匹は遺伝子型4、また未知の遺伝子型(wbJOY_06)であった。wbJOY_06は、7246塩基(poly(A)を除外)で構成されている。wbJOY_06株のゲノムは人間、ブタ、イノシシ、鹿、マンガース、ウサギから得られた既知の遺伝子1-4HEV株(n=145)とは22.6-27.7%、ラットHEV分離株(n=2)とは46.0%-46.2%、鳥HEV分離株(n=5)とは52.5-53.1%一致していた。wbJOY_06株が未だ確認されていない遺伝子型の最初のメンバーであると考えている。
4	E型肝炎	J Infect Dis. 2010 Sep 15;202(6):835-44	フランスで臓器移植のレシピエントにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)感染について報告された。HEV遺伝子型3型感染の38症例のうち22例(58%)が慢性肝炎となっていた。慢性肝炎を発症した症例は、ウイルス感染のない症例に対して急性期アミノトランスフェラーゼ値が高かった。患者37例とコントロール148例に対して、ロジスティック回帰分析では、HEV感染は狩猟肉摂取量に関連していることが示唆された。
5	E型肝炎	Journal of Clinical Virology 48; 58-61 2010	インドにおける遺伝子型4ヒトE型肝炎(HEV)感染の初症例について報告された。インドに渡航した症例で、遺伝子型4HEVに感染し重篤な肝炎を発症した。インドでの遺伝子型4HEVの人獣共通感染について最初の報告である。
6	E型肝炎	ProMED-mail 20101023.3849	英国Cornwallでは、まれな肝疾患であるE型肝炎で3名が死亡、渡航歴のある少なくとも55名が発症した。E型肝炎は一般に不衛生な環境を原因として発症し、これまで英国人の患者は海外で感染したものと想定されていた。しかし、ある医師は、診察した最近の患者は通常の判断基準に合致しないと述べている。患者は渡航歴がないだけでなく、ウイルス感染の一般的な年齢範囲(他国では、一般的に若年層に感染している)に合致せず、中高年及び高齢者、とくに男性に見られる。医師は、主たる原因は生ブタ肉への接触であると考えている。
7	E型肝炎	Veterinary Microbiology 140,256-265,2010	E型肝炎ウイルス(HEV)には4種類の遺伝子型があり、1型及び2型では感染がヒトに限られ、しばしば発展途上国における大規模な集団発生や流行と関連している。一方、3型及び4型に関しては、ヒト以外にブタ、鳥及びその他の動物種にも感染し、発展途上国及び先進国において散発例が認められている。最近のブタや鳥由来のHEVの同定や特徴付け、これら動物種における異種間の伝播の可能性に関する報告から、HEVの人獣共通感染に関する公衆衛生上の懸念が高まる。E型肝炎が人獣共通感染症であることを示すエビデンスから、ブタやおそらく他の動物種がHEVの保有主である可能性が示唆される。現在までに、HEVに対する有効なワクチンは存在していない。
8	インフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 16(10),1515-1523,2010	インドネシアのブタからのインフルエンザA(H5N1)ウイルスについて報告された。2005年-2007年の期間で、4州の52頭のブタに感染を認めたが2008年-2009年には認めなかった。系統的解析では、少なくとも3つの機会にインドネシアのブタ集団にトリインフルエンザウイルスが感染したことが示された。1つの分離株はヒト型のレセプターを認識する能力を有していた。感染したブタのいずれもインフルエンザ様疾患の症状がなく、H5N1ウイルスが長年気付かれずに複製し、ウイルスが哺乳類の宿主に適應するのを促進していることが示された。ブタがH5N1ウイルスの流行時に感染する危険性が高く、このトリインフルエンザウイルスが体内で哺乳類に適應できるようになる中間宿主の役割を果たすことが示唆された。
9	インフルエンザ	influenza Other Respi Viruses. 2010 Nov;4(6):387-96	2002年から2004年のIowaにおけるブタからヒトへのインフルエンザAウイルスの伝播について報告された。Iowa州の豚肉生産会社で働く労働者とブタにおけるブロスベクティブなコホート研究を2年間行った。その結果、1年目は15/88例(全検体陰性)、2年目は11/76例(1検体がH3N2であった)の労働者がインフルエンザ様症状を発現した。ブタ20群由来の検体は、RT-PCRによって17検体にインフルエンザA(11検体がH1N1、5検体がH3N2)が検出された。労働者がブタで循環しているウイルス型に曝露していたことが示された。
10	インフルエンザ	Journal of clinical microbiology Vol.48(9),3204-3211	韓国における2009年パンデミックインフルエンザウイルス(H1N1)のヒト-ブタ間の伝播について報告された。遺伝学的およびウイルスセグメントの系統解析からヒトとブタ間の伝播感染の事例が示された。これらの事例は、4月から8月のブタ血清の血清学的調査から、恐らく6月と7月の間に種間伝播が起こっていたことが示唆された。本研究により韓国におけるパンデミックインフルエンザA(H1N1)2009インフルエンザウイルスの広範なヒトと動物間の伝播経路が示された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
11	インフルエンザ	Journal of Virology 2010,84(5),2245-2256	ブタ群れからの自然感染による2009年のH1N1インフルエンザウイルス(H1N1)の遺伝的及び病理生物学的特徴について報告された。新規のH1N1ウイルスがメキシコと米国で最初に同定されて以来、1918年の大流行に匹敵する可能性があると考えられている。2009年4月末に系統学的にH1N1ウイルスと関連したウイルスが、カナダの養豚場におけるアウトブレイクから分離された。このアウトブレイクは疫学的に疑いのあるヒト症例との関連があると疑われた。このアウトブレイク由来のブタ分離株A/ブタ/Albarta/OTH-33-8/2008(Albarta株)と、ヒト分離株A/Mexico/InDRE4487/2009(Mexico株)を各ブタの鼻腔内もしくは気管内感染させたところ、肺からのウイルス回収に関して2種類のウイルス株に相違があり、ブタ由来株は低頻度、低タイターで、ヒト由来株は高頻度、高タイターで回収された。ウイルスの起源はブタであると考えられるが、いくらか不規則な病理生物学的特徴を伴っており、ウイルスの進化が依然として進行中かもしれないことを示唆している。
12	インフルエンザ	ProMED-mail 20101112.4117	2010年11月12日、米国においてブタ由来インフルエンザH3N2に感染した2症例(Wisconsin州及びPennsylvania州)について報告された(FluView報告)。両症例は生育ブタと近接していたことが確認されたが、2例の発症日は6週間以上離れており、ウイルス遺伝子はいくつか異なり、2人は関連性がない。両州では、当該ウイルスの地域感染は認められていない。ブタインフルエンザにヒトが感染した稀な例である。2005年以降、米国CDCに報告されたブタ由来インフルエンザウイルスによるヒト感染症 計18人(今回の2症例を含む)。このうち、ブタ由来A型(H3N2)ウイルスは過去 3症例、今回 2症例(計 5症例)である。
13	インフルエンザ	www.cdc.gov/flu/swineflu/soiv_cases.htm	2005年以降、2011年1月25日時点で、米国においてブタ由来インフルエンザウイルス(SOIV)のヒト感染症例が20例報告された。近年の米国で循環しているサブタイプは、trH1N1ウイルス、trH3N2ウイルス、trH1N2ウイルス3種再集合体である。報告された20例のうち、12例はtrH1N1ウイルス、7例はtrH3N2ウイルス、1例はtrH1N2ウイルスであった。全20例の患者は回復し、13例は若年者(19歳未満)であり、7例は大人であった。16例においてブタとの直接または間接接触が特定された。これらの感染のヒト-ヒトの直接感染が実験では確認されていないが、ブタとの接触がなく、感染者のみとの接触が報告されている。
14	インフルエンザ	病原体講座 第1回 インフルエンザウイルス	インフルエンザウイルスは、A、B、C型に分類され、ブタに感染するA型について、ウイルスの基本情報(感染の歴史など)、ウイルス構造、感染機序などが説明された。インフルエンザウイルスは他のウイルスと比較して感染後の経過期間が短い。万一養豚場に浸潤しても、外部との接触を避け、二次感染に気をつけて冷静に対応することが大切である。
15	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20101119.4166	2010年11月17日報告、中国(香港)においてH5N1鳥インフルエンザウイルスの感染症例1例が確認された。症例は59歳女性。Shanghai, Nanjing, Hangzhouを旅行後、11月1日に香港に戻り、翌日インフルエンザ症状が発現した。症例は肺感染を伴う重篤な状態で入院中である。
16	エボラ出血熱	International Conference on Emerging Infectious Diseases,#462,2010	2008年10月、フィリピンにおいて初めてブタ組織検体からエボラレストンウイルス(REBOV)が検出された後、ブタ飼育者におけるREBOVの感染状況を疫学的に調査し報告された。初めてREBOVが検出された農場から半径5kmの範囲にいるブタ飼育業者385名を対象に血液検査を行ったところ、REBOV IgG抗体陽性率は17%(54/316)であった。そのうち50%(27/54)が過去6か月以内に有病のブタを扱っていた。REBOV検出率17%は1989年Mirandaらによる霊長類輸出業者を対象にした研究報告に比べて11%高い。REBOVのブタからヒトへの伝播はブタ分泌物への曝露を介して感染の可能性が示唆される。
17	狂犬病	ProMED-mail 20100815.2825	2010年8月15日報告、8月14日にインドネシアのバリ島、TanabanとBadungにおいて牛及びブタで狂犬病ウイルスが確認された。
18	口蹄疫	OIE 2010 April 20	韓国における口蹄疫:発生日2010年4月8日、最初の確定日2010年4月9日、報告日2010年4月19日、原因、口蹄疫ウイルスO型。2010年4月9日から4件のアウトブレイクが発生した。アウトブレイクNo.1:開始日2010年4月10日、Sunwon-myeon, Ganghwa-gun, INCH'ON-JIKHALSIの農場にて、ウシ確定4頭、疑い例220頭、死亡例0頭、屠殺例220頭。アウトブレイクNo.2:開始日2010年4月9日、Sunwon-myeon, Ganghwa-gun, INCH'ON-JIKHALSIの農場にて、ウシ確定6頭、疑い例90頭、死亡例0頭、屠殺例90頭。アウトブレイクNo.3:開始日2010年4月9日、Sunwon-myeon, Ganghwa-gun, INCH'ON-JIKHALSIの農場にて、ウシ確定1頭、疑い例44頭、死亡例0頭、屠殺例44頭。アウトブレイクNo.4:開始日2010年4月9日、Buleun-myeon, Ganghwa-gun, INCH'ON-JIKHALSIの農場にて、ブタ確定3頭、疑い例1500頭、死亡例0頭、屠殺例1500頭。
19	口蹄疫	OIE 2010 April 21	中国における口蹄疫:発生日2010年2月22日、最初の確定日2010年2月28日、報告日2010年4月21日、原因、口蹄疫ウイルスO型。2010年4月17日にGansu, Tianshui, Wushan, Tianfengの農場において口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタ確定例47頭、疑い例403頭、死亡例0頭、屠殺例403頭
20	口蹄疫	OIE 2010 May 19	日本(宮崎)における口蹄疫:発生日2010年3月26日、最初の確定日2010年4月20日、報告日2010年5月19日、原因、口蹄疫ウイルスO型。川南町などの農場において、ブタ確定例31頭、疑い例36083頭、屠殺例36083頭。
21	口蹄疫	ProMED-mail 20100618.2041	カザフスタンにおける口蹄疫について報告された。開始日2010年6月9日、最初の確定日2010年6月15日、血清型は不明。Novodolinka, Erymentaum, Aqmola, Kokchetavにおいて、ウシ:確定例140頭、疑い例639頭、死亡例0頭、屠殺例639頭、ヒツジ-山羊:確定例0頭、疑い例767頭、死亡例0頭、屠殺例0頭、ブタ:確定例0頭、疑い例487頭、死亡例0頭、屠殺例487頭。

ID	感染症(PT)	出典	概要
22	口蹄疫	ProMED-mail 20100722.2456	2010年7月22日、日本(宮崎県)における口蹄疫について情報が更新された。7月22日、宮崎県庁は口蹄疫流行の締結宣言をする前に獣医師により県内の約940000頭の家畜に対して視覚的に確認を行った。8月11日まで7700農場の家畜の健康状態を確認する計画である。
23	口蹄疫	ProMED-mail 20101225.4546	2010年12月24日、韓国における口蹄疫について、①国際獣疫事務局(OIE)追跡調査(2010年11月26日開始、12月23日報告)の結果、牛が曝露430頭、発症30頭、死亡なし、処分430頭、豚が曝露15890匹、発症6匹、死亡なし、処分15890匹であった。②12月24日、Ganghwaの北西部の島で新たに感染3匹が確認された。③口蹄疫ワクチンの接種を開始した。
24	口蹄疫	ProMED-mail 20101227.4561	2010年12月26日、台湾における口蹄疫について、国際獣疫事務局(OIE)追跡調査(2010年12月17日開始、12月24日報告)の結果、新たなアウトブレイクが報告された。豚において曝露161匹、発症10匹、死亡及び処分はない。
25	ウイルス感染	Appl Environ Microbiol.2010 Dec;76(24):7997-8003	Romaine Lettuce表面へのノロウイルスの結合と分布を調査することにより、ロメイン・レタスがノロウイルス感染での潜在的な媒体であるかを評価した。組替え体ノーウォークウイルス様粒子(rNVLP)をRomaine Lettuceの表面に塗布すると葉脈上に大きなクラスターとして存在した。リン酸緩衝生理食塩水によるRomaine Lettuce抽出物は濃度依存的にrNVLPと結合した。またRomaine Lettuce抽出物中に存在する非組織血液型抗原分子が既知の結合部位とは異なる部位によってrNVLPと結合することが示唆された。
26	ウイルス感染	BMC Veterinary Research 2010,6:30	新規の東欧亜型3型の豚繁殖呼吸障害症候群ウイルス(PRRSV)の病因と病原性の特徴が報告された。PRRSVは、欧州と北米遺伝子型に分類される。東欧で分離された PRRSV 分離株は、欧州遺伝子型に分類されているが、いくつかの亜型が存在する。今回、研究者らは、ベラルーシの養豚場1か所から、新規の PRRSV 株(Lena)を発見し、解析の結果、新規の東欧亜型3型、高病原性であり、臨床症状は重篤である。欧州亜型1のレリスタッドや北米US5の株と異なる。
27	ウイルス感染	http://diseasemaps.usgs.gov/	米国で東部を中心としてウマ及びヒトの東部ウマ脳炎の感染が報告されている。ヒトについては、5州、ウマについては17州で感染の陽性反応が確認されている。
28	ウイルス感染	Veterinary Microbiology 140,204-212,2010	ノロウイルスとサボウイルスの人獣共通感染症について報告された。両ウイルスは動物及びヒトで感染が認められており、これらウイルスが人獣共通感染源としての可能性があるかは不明である。現在までにヒトで動物ノロウイルス及び動物サボウイルスは検出されていないが、動物からはヒトノロウイルスが検出されており、人獣共通感染の側面から種間伝染の潜在リスクが示唆される。さらにブタからヒトノロウイルス抗体が検出されたように、ヒトからも動物ノロウイルス抗体が検出されている。また無菌環境下(gnotobiot)の仔ウシ及びブタへのヒトノロウイルスの感染実験では、ウイルス複製やセロコンバージョンが確認されている。以上のことから、人獣共通感染源としての可能性について更なる調査が必要である。
29	異型クローン フェルト・ヤコブ病	J Environ Qual.2010 Jul- Aug;39(4):1145-1152	土壌を介した病原性プリオン蛋白質の伝達感染について報告された。伝達性海綿状脳症(TSE)の病原性プリオン蛋白質が地表に堆積した後、土壌を介して動物へ感染するおそれがあり、感染した死骸の埋葬地に対するリスク評価の必要性が問われる。プロテアーゼ処理したTSE感染脳ホモジネートを感染組織中病原性プリオン蛋白質のモデルとして雨水に溶解し、砂壤土、シルトローム、埴壤土などの5種類の土中に溶出させ、SDS-PAGE、免疫沈降等によりモデル蛋白質の挙動を確認した。その結果、病原性プリオン蛋白質が土壌と結合し初期堆積物に留まることが示された。以上より、地表にTSE感染した死骸が堆積するケースにおいて、これが他の動物に対する感染源となる可能性が示唆された。
30	黄色ブドウ球菌感染	Epidemiol. Infect. 138,756-763,2010	オランダの生育ブタと接触する屠殺場の労働者におけるMRSA高検出率について報告された。家畜が関連しているMRSAは様々な動物、牧畜農家及び小売り肉において検出されている。ブタ屠殺場の労働者のMRSAの検出率と決定要因の確認を目的とした。オランダの3つの大きな屠殺場で2008年にヒトと環境下にある検体に対して調査が行われた。MRSAはブタ屠殺場の労働者に高い検出率が認められ、生育ブタの中で働くことはもっとも危険な因子であることが示された。感染予防措置策を実行するために必要な動物からヒトへの正確な感染ルートはまだ解明されていない。
31	黄色ブドウ球菌感染	Science,329,1010- 1011,2010	ブタからヒトへの新規superbugについて報告された。2004年7月、オランダで生後6か月の女児の心臓手術後、黄色ブドウ球菌検査を実施した結果、黄色ブドウ球菌だけでなくMRSAも発見された。MRSAは世界の先進国で流行していたがオランダでの感染は珍しかった。女児は渡航歴がなく、感染の手がかりは両親が養豚家であることであった。また数週間以内に同病院で2例目のMRSA感染の患者が認められ、他の養豚家であることが判明した。3例目の患者はブタ専門の獣医の子供であった。この病院で発見された3例から分離された菌の種類はST398であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
32	黄色ブドウ球菌感染	Veterinary Microbiology,142,361-366,2010	2008年イタリアにおける肥育後期ブタから採取されたMRSAの遺伝子同定及び抗菌感受性に関する調査が実施された。イタリア北部あるいは中部に位置する118の畜殺場からの検体に対して、MRSA分離株のspa、MLST、SCCmecIによる遺伝子解析、及び抗菌感受性の調査が行われた。MRSA検出率は38%(45/118農場)であった。分離されたMRSA102株から11種のspa型が認められ、最も高頻度に検出されたのはt899(ST398)であり、新型の3種類のspat4794(ST9)、t4795(ST97)、t4838(ST398)が検出された。またt1730は新型の単一遺伝子座ST97の変異株であった。全64株に対してテトラサイクリンに対して耐性を示し、またメリトプリン68.8%、エリスロマイシン60.9%、シプロフロキサシン35.4%と高い耐性率を示した。本研究はブタからのMRSA分離株としてST1およびST97が初めて分離された報告であり、またST9が欧州で初めて分離された報告である。ヒト関連のMRSA株t127、ST1が今回確認されたことにより、ブタが保菌宿主としてヒトへの感染をもたらす可能性が懸念される。
33	レンサ球菌感染	Emerging Infectious Diseases 16(4),682-684,2010	デンマークのヒトにおけるブタ由来ゲンタマイシン高度耐性大便連鎖球菌について報告された。2001-2002年の間にデンマークで2名の感染性心内膜炎患者とブタ及び豚肉からゲンタマイシン高度耐性大便連鎖球菌分離株が検出された。これらの分離株が同一のクローン群に属することが示され、ブタがヒトにおけるゲンタマイシン高度耐性大便連鎖球菌の感染源であることが示唆された。
34	レンサ球菌感染	Future Microbiol. 2010;5(3),371-391	ブタレンサ球菌(S.suis)による感染症は、豚産業において世界的かつ経済的な問題と考えられる。さらに、S.suisは感染したブタや豚肉由来製品に近接する人々を苦しめる人獣共通感染症である。ヒトにおけるS.suis感染(主に髄膜炎)の散発的症例はここ40年間報告されているが、大規模なアウトブレイクは2005年夏、中国において発生した。アウトブレイクの間、ヒトに与える影響(例えばより短い潜伏時間、より迅速な疾患進行とより高い死亡率)について科学界やマスコミは非常に関心を示し、S.suisに関する出版物の数は、近年有意に増加した。本論文では、我々はヒトのS.suis感染について現在の知識を再評価し、2005年のアウトブレイクやその影響を説明するための仮説について論じている。
35	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20100430.1398	ベトナムニュースで、ブタレンサ球菌の感染例4例について報告された。4例中2例は人工呼吸器が必要であった。高熱、下痢、乏尿、皮膚に出血性壊死の斑点の症状が認められた。
36	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20101210.4404	2010年12月10日報告、タイのPhetchabunにおいて、2010年初期からStreptococcus suis感染症例23例、及び死亡5例が報告されている。最近さらに3症例がLampangから報告された。
37	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20101230.4591	2010年12月30日報告、中国(香港)において、12月28日Streptococcus suis感染症例1例が確認された。症例は56歳男性で、Sha Tinに居住。2010年で10例目の症例である。
38	レンサ球菌感染	日本化学療法学会雑誌 58(1),32-33,2010	タイ国立予備衛生研究所(NIH)が実施する国内の侵襲性感染症ネットワークを介して収集した血液、髄液由来のレンサ球菌検体の生化学的・分子疫学的調査について報告された。2006年から2008年9月までの期間に国内レンサ球菌1154株から177株のS.suisを同定し、うち93.2%が血清型2型であったが、12株(6.8%)は血清型14型であった。血清型2型のうち24%がST104であり、これは他国では報告がなくタイ固有の株と考えられる。また血清型14型については、ST1271株を除く全てがST105であった。ST105についても北タイ固有のクローナルな伝播が示唆された。さらに血清型14型感染の12例の臨床像は髄膜炎(58.3%)、敗血症(25%)、敗血症性関節炎(25%)、硬膜外・硬膜下腫瘍(8.3%)であった。以上の患者にはブタへ職業的曝露がないことから、生肉の摂取あるいは調理時の感染が可能性として考えられる。また北タイにおける伝統的食習慣であるブタ生食のリスクを周知徹底することが急務である。
39	レンサ球菌感染	日生研たより56(1)5-12 2010	豚レンサ球菌(S.suis)の病原因子と強毒株マーカーについて報告された。1)ヒト及び豚レンサ球菌症について：ヒトで劇症型レンサ球菌症を起こすこと、感染源が豚あるいは豚肉に特定出来る。2)豚レンサ球菌の病原因子おまたは強毒株マーカー：現在まで35種類の血清型が報告されており、患者から分離された株は豚と同様に2型が最も多く、当該型には強毒株が多い。3)新たな食の脅威となりうるか：食品を介した人へのリスクを評価するためには、強毒株の識別方法を開発することが必要である。4)強毒株識別マーカーの候補：Multilocus Sequence Typing法(house-keeping遺伝子の塩基配列を調べ、菌株の遺伝的類似性を比較する方法)により、病豚や患者から分離された豚レンサ球菌株の多くは主に3つの遺伝的にクローナルな集団(ST1、ST27、ST87)に集約されることが明らかとなった。
40	炭疽菌	OIE 2010 July 27	カザフスタンにおける炭疽菌：発生日 2010年6月19日、最初の確定日 2010年6月22日、報告日 2010年7月27日、原因 Bacillus anthracis。新たなアウトブレイクはない。
41	炭疽菌	OIE 2010 September 28	コロンビアにおける炭疽菌：発生日 2010年4月20日、最初の確定日2010年5月23日、報告日2010年9月28日、原因 Bacillus anthracis、ヒツジで感染疑い12匹、発症1匹、死亡1匹、豚で感染疑い1匹
42	炭疽菌	ProMED-mail 20100907.3223	2010年9月7日報告、ブータンのZhemgang dzongkhagにおいて、炭疽菌のアウトブレイクが発生。最初の症例は7月半ばから8月13日の間に感染したと考えられた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
43	ブルセラ症	OIE 2010 August 31	ラトビア共和国におけるブルセラ症:発生日 2010年8月31日、最初の確定日 2010年9月11日、報告日 2010年9月15日、原因 Brucella suis、牛で感染疑い31頭、豚で感染疑い2055匹、発症8匹、処分3匹
44	ブルセラ症	ThePigSite 2010.09.16	OIE 2010 August 31の内容が報告された。ラトビアのTalsiにおける農場でブルセラ症のアウトブレイクが発生したと報告された。牛で感染疑い31頭、豚で感染疑い2055匹、発症8匹、処分3匹
45	野兔病	ProMED-mail 20110127.0327	2011年1月24日、米国Texasの研究者らが、地域農民、牧場主、猟師に対して、野性豚には野兔病の細菌を保有していることから、野生獲物を処理する時には注意するよう警告した。
46	細菌感染	Research in Veterinary Science 2010 Jul 9	ブタ258頭(病変有り129頭、病変無し129頭)及びイノシシ120頭(病変有り60頭、病変無し60頭)のリンパ節について、Mycrobacterium属及び他の病原菌を調査した。顎下リンパ節と腸間膜リンパ節については細菌検査を実施し、Mycrobacterium属を示唆するコロニーにはPCR法を行った。リンパ節炎を有するブタで、Mycrobacterium属(24.1%)及びRhodococcus equi(13.2%)が最も多く同定されたが、リンパ節炎のないリンパ節では環境マイコバクテリアを含む微生物群が同定された。リンパ節炎を有するイノシシでは、Streptococcus属(10.0%)、Mycrobacterium属(8.4%)及びRhodococcus equi(6.6%)が高頻度に同定された。
47	旋毛虫症	Parasite. 2010 Sep;17(3):199-204	セルビア、Belgradeにおける旋毛虫症について報告された。2001年から2008年を調査期間として、旋毛虫症入院患者50症例に対して後ろ向き調査を実施した。その結果、季節性に発生する傾向が強いこと、潜伏期間は1-33日間(平均9日間)であること、家族性に発症が多いこと、主な感染源は燻製豚肉製品(76%)であることが分かった。43症例について血清学的な調査を行ったところ72%の症例が抗旋毛虫症抗体を有していた。
48	旋毛虫症	ProMED-mail 20100705.2238	2010年7月5日報告、Oaxacaにおいて、市場で購入した豚肉から旋毛虫が検出された。
49	旋毛虫症	ProMED-mail 20100813.2783	2010年8月9日報告、Pueblo General Belgranoで約30人の住民が、旋毛虫症と診断された。Gualeguaychuで少なくとも10人の裁判所関係者が感染した。Pueblo Belgranoの1軒の肉屋から始まったと考えられており、患者らがサラミや豚肉を購入している。
50	旋毛虫症	ProMED-mail 20101106.4019	2010年11月2日、アルゼンチンのCordobaにおいて旋毛虫症のアウトブレイクが報告された。これまでに、Cordoba市で7症例が報告されている。
51	その他	FDA Recalls Information	2010年10月29日、材料提供会社Scientific Protein Laboratories LLCが保管された天然ヘパリンのサンプルの追加検査により微量の汚染された過硫酸化コンドロイチン硫酸塩を検出したとしてヘパリンの有効成分の回収を始めたため、2008年に製造されたヘパリンの7ロットを回収するとのことである。
52	その他	Thrombosis and haemostasis 102(5)907-911.2009	汚染されたヘパリンについてのこれまでの報告の追加情報について報告された。近年、アレルギー様反応を示す重篤な副作用の発現に、ヘパリンの特定のバッチが関連していることが報告されている。これらの報告から、ヘパリン中に危険な不純物が混入している可能性があるとする懸念が生じ、医療用のヘパリン製剤の純度基準を再評価する必要性が強調された。従来のスクリーニング試験では汚染されたヘパリン製剤と汚染されていないものを安全に区別することが出来ない。単一と二次元NMR分析法は様々な可能性のある硫酸化多糖類不純物を検出し定量することができる強力な技術である。このようにこれらの技術はヘパリン製剤の分析と評価のための強力なツールである。